



森と資料館を
創った人々の
想いを受けて

ハンセン病資料館は開館から30年を迎えました。

資料館を創った人たちと、多磨全生園の緑化を進めてきた人たちの想いを振り返り、
学校でのハンセン病問題を通じた人権学習についてお話しいただきます。

講師 佐久間 建 先生

参加無料

オンライン配信

オンラインでのご参加は
事前申込制になります。
こちらのQRコードより
お申込みください。



Zoomウェビナー 定員500名

資料館公式サイト



<https://www.nhdm.jp/>

2024 3.30 (土) 13:30—15:20

会場参加・オンラインによるハイブリッド開催

国立ハンセン病資料館 映像ホール 開場 13:00

会場定員120名 [先着順]

プログラム 開会の挨拶 国立ハンセン病資料館館長 内田 博文

講演 「森と資料館を創った人々の想いを受けて—30年間の人権学習の取り組み—」 佐久間 建



講師 ^{さくまけん} 佐久間 建 先生 東京都立武蔵台学園 府中分教室教員

国立ハンセン病資料館運営委員会委員、ハンセン病に係る偏見差別の解消のための施策検討会有識者会議委員
ハンセン病資料館開館時より、多磨全生園に最も近い東村山市立青葉小学校で、全生園の人々との交流と
ハンセン病に関する学習指導に取り組む。以来、30年間にわたりハンセン病人権学習を実践している。
著書『ハンセン病と教育～負の歴史を人権教育にどうかすか～』（2014）、共著『ハンセン病問題から学び、
伝える』（2022）、監修『13歳から考えるハンセン病問題』（2023）